

令和5年秋特集



いながき

コロナ関係の予算 累計で110億円余に ～総額は市民税の一年分を上回る～



いとう

警報 吉川でもインフルエンザ流行

埼玉県は11月1日。県内全域にインフルエンザ流行の警報を発令。吉川でも10月下旬から小中学校で学級閉鎖が相次いでいます。11月13日現在。小学校で25学級。中学校でも8学級が閉鎖。3日間にわたる休校です。コロナ感染症についても小中学校で10月4件の学級閉鎖。マスク姿が続いています。

※10月26日から28日。11月2日から11日。吉川市内12の小中学校で久々の学校公開。文化祭。中学校4校と小学校6校を訪問。澄んだはじけるような歌声。生き生きとした公開の授業、クラブ活動の紹介。大勢の保護者の皆さんと一緒に参観しました。ICT教育の導入。不登校の増加。働き方改革。校長先生と意見交換も出来ました。

【市予算総括 コロナの3年半】

コロナ感染症は5月8日からインフルエンザ並みの5類扱いに。

想定外の未知の恐怖。手探り状態で消毒の徹底、マスク着用。3密の回避とともに飲食店の夜間営業制限や各職場への出勤規制の要請。学校は3ヶ月間の休校に。ワクチンの開発・接種の効果の一方でコロナウイルスは変異を重ね第8派にわたるうねり。県民の6人に1人が感染。吉川市役所では5人に1人。消防職員は4人に1人が感染の報告。

当初の感染防止の対策から後半は暮らしや経済支援に重点を移しての広範な対策。予算額では全国民を対象にしたひとり10万円の給付事業。これだけで吉川市でも73億円の予算を計上。国・県の制度や施策に基づく事業と並行して「地方創生臨時交付金制度」が設けられ地方の実状に沿った施策の展開も進みました。

吉川ではこの3年半に地方創生臨時交付金総額20億円余の配分。国の基準外のボーダーラインの家庭等に独自に一律10万円、5万円、3万円の上乗せ支給や交通事業者等への減収補てん。商工農事業者への補てんや活性化助成の施

策等。このほか学校や公共施設のトイレ洋式化やLED化。防災備品の拡充も。さらにこの一年は電気やガソリンの値上げ対応の給付事業にもコロナ予算が充当されています。

吉川ではこの3年半の累計で総額110億円余、市民税の一年分を超える歳入増になっています。

【取り組みを検証し着実に 次のステップへ！】

コロナ禍に対する国の大盤振る舞い。財源はすべて赤字国債です。会計検査院はコロナ関係予算の使用の実態調査を行ったうえで適正でないものや疑問のある事例が散見されると指摘。各部門や団体ごとに検証し次につなげる様求めています。

吉川でも財政調整基金への4億円の積み増し等コロナのおかげで財源的には若干のゆとりが出来ていることも事実です。

この3年半の施策の効果。問題点や今後の課題はなにか。ポストコロナの時代。DX・デジタル変革やSDGs・持続的開発目標に向き合うためにも情報開示を含めクールに検証作業をと求めています。

(いとう記)

いながき 茂行

吉川市栄町782番地1C-1101
TEL 983-1628
Eメール iimachi.yoshikawa@gmail.com
ホームページ http://www.inagaki-s.com

いとう 正勝

吉川市きよみ野2-8-2
TEL・FAX 983-1117
Eメール ith.m-y.runesansu@nifty.com

まん中の吉川に！

解放感と喜びを 次へのエネルギーに

久々に学校の公開と文化祭。どこも大勢の保護者。迎える児童生徒、先生方。活気が溢れ、気持ちを通い合う心地よさ。新たな一歩を踏み出す、その機が熟しています。

■学校は地域の拠点 子どもまん中の象徴

新興住宅地の美南小や吉川中はマンモス化。旭小・三輪野江小、東中で児童生徒が減少しています。

吉川では先に中学校1校と小学校2校をグループ化し住民を交え学校運営協議会を設置。▽小中一貫教育の推進▽不登校対策▽働き方改革や施設の開放などを協議。不登校は吉川でも急増。直近では小中合わせで最多の145人。中学1年生が多く、中一のギャップをどう埋めるかもテーマです。

保育所については園児に対する保育士配置の基準見直しや処遇の改善。新設の子ども家庭庁が提起を進めています。吉川では保育士の半数

は会計年度職員。この臨時扱いは保育士をどう位置付けるかも課題です。



▲吉川中央中学校を視察「考える人」前で伊藤正勝市議

ています。推定では75歳以上の5人に一人が認知症ではということですが。

吉川では認知症サポーターに六千人が認定されています。このうち児童生徒も二千人近くに。繋がり支え合う機運づくりの大切さ。なまらん体操の一層の拡大充実も求めています。

■美味しい給食の提供 給食費無償化の検討

吉川の学校給食は美味しい。食べ残しの残菜率も低くなったとのこと。先の所沢市長選挙では給食費無償化を公約した候補が当選。国政を動かす本流になりそうですが、吉川では少なくとも保護者負担が増えないように目配りを致します。

■人生百年時代を元気に 認知症とフレイル対策

団塊の世代も75歳以上に。コロナ禍の影響もあり、認知症やフレイル(高齢による衰弱)が増え

■公共の施設、公園 もっと利用の促進を

コロナ禍を乗り越えて元気に明るく楽しく。こども会議の新設や高齢者との話し合いを通じ、市民がもっと利用しやすい施設やルールの整備が必要です。

公共の施設は市民が利用しなければ意味がありません。庁舎の会議室や議場なども積極的に市民利用に提供すべきだと繰り返し提言しています。議場の開放などは、全国的に広がる様相です。人生百年の時代を見据え、子どもまん中の吉川を創る―その使命を自覚し活動して参ります。

ICT教育で変わる学校

10月25日。会派の仲間と4人で旭小学校を訪問。10月9日の市民体育祭の折にICT教育と少人数指導の実状を拝見したいと校長にお願いし実現したものの。

旭小の前身は郁文学学校。校長室には勝海舟の「郁文学学校」の墨書。勝海舟日記には明治12年4月にこの地を訪れたことも記されています。

清潔な廊下。どの学級も児童の机の上にはタブレット端末。各クラスは20人前後で授業に集中。2年生は端末利用の基本を学習。テーマに沿っての編集や検索。大型モニターに映し出している研究発表も。まるで遊んでいるような雰囲気の中で先行の児童が周辺の仲間に見える場面も。児童の好奇心や吸収力に感動を覚え学校が変革の時代を先取りしているとの思いでした。

翌日東中学校へ。ICTになじめない生徒がいるのではとの問いかけに教頭先生は「小学校で基礎を培っていますから」と話してくれました。

デジタルDXの時代は地域社会も大きく変えることになりそうです。共々にこの変化を楽しみたいものです。(いとう)

人生100年 子ども

大規模災害への備え

吉川で想定される大規模災害は、大地震と河川の氾濫です。

災害で市や個人が事前に準備できることは限られますが、災害時の対応は、「自助」「共助」「公助」の順です。

まずは、自身と家族で対応。次に近所等、地域での助け合い。役所が動くのは最後で、日数を要します。

地域での支援活動の核となるのは自治会です。日頃の活動を通じ、ご近所の方々の顔と名前が一致。さらに支援を必要とする方への対応ができる体制が望ましい姿です。時と場所を選ばない災害。市内に通学している中学生は、頼りになる存在です。

総合治水

荒川区では全中学校に「防災部」を設置し、防災ジュニアリーダーを養成。将来、地域防災活動の中核となる人材を育成しています。

吉川駅前や南中学校周辺地区が冠水する状況が続いています。市内に降った雨水の処理は、「溜めて流す」が基本です。

共保ポンプ場の能力アップと調整地、調節池整備の両面で解決すべきです。

実践的訓練を

市内で最も危険な地域を対象に、避難や避難所運営を住民らで行う等の実践的訓練が必要です。そこをモデル地区にして広げることも。

吉川美南東口開発 三輪野江工業団地開発

開発の目的は、地域の賑わい(活性化・産業振興)と税収確保、そして雇用の創出です。市の発展と市民・地権者。三者の利益につながるものでなければ、うまく行きません。

【美南駅東口開発】

総合病院の進出。調査し協力を市民が望む公共施設を裁判より話し合いで解決を市は「折衝力」の強化を

【三輪野江】

埼玉県企業局との共同事業を進めている「工業団地開発」。



吉川中央緑地にて 遊水機能を説明する 稲垣茂行市議

地権者との用地交渉は吉川市の仕事です。

「白地地区」の中に「優良農地」があり、農業を続けたい農業者もいます。農地転用が難しい場所です。

市は、隣接した三郷市との一体開発を含め、地権者との調整を。

市民と創る「まちづくり」

「住んでよかった・これからも住み続けたい」。そんなまちづくりには、市民と行政の連携・協力が必要です。

行政と市民の信頼関係は、「情報公開」と「協働」から生まれます。開かれた市政。市民が主役のまちづくりの第一歩は、厳しい確かな目で、首長や議員を選ぶことです。

議会・議員が果たす役割と責任

議会・議員の最大の役割は「お金の使い方・使われ方」をチェックすることです。

私たちの税金を必要なく無駄なく使うため、事業の必要性・有効性・優先順位等を精査し、予算・決算で審査。「最小の費用で最大の効果を上げる」取り組みかどうかを確認することです。

具体的には、市が行っている500を超える事業について、「最小の費用で最大の効果を上げる」ことが出来ているかどうかを判断します。

その結果、事業の見直しや継続を検討。ほとんどの事業は継続されますが、更なる改善を求めます。もう一つは、地域の課題を解決することです。市全体とそれぞれの地域で抱える問題があります。

総合治水や防災・減災対策、地域包括ケアシステムの構築等から身近な道路や公園の遊具の補修までさまざまです。

お金のチェックも地域課題解決も、議員に力がなければ出来ません。「現場百回」と職員に負けない知識そして継続してやり続ける力が必要です。「いいまちを創っていきたい」という思いが議員の行動に現れると思います。

市民の責任は、はっきり言えば「よりマシな人」を選ぶことではないでしょうか。(いながき)

- 16年を振り返って -

2008年（平成20）3月議会より16年に渡りお届けしてきたこの「議会活動報告」も65回を数えることとなりました。

議会活動報告では、市の政策や事業そして市政と議会の現状と課題等を正しく分かりやすく伝えるよう努めるとともに、私たちの考えを明らかにしてきました。また政策や事業の実施に当たっては、市民目線で必要性・有効性・優先順位等を精査し判断をしました。

その結果、最終的に市民の利益につながらないことについては反対の立場で臨み、問題によっては市民とともに行動してきました。1～2か月で終わるものもありますが、ほとんどの取り組みは数年かけて改善・解決を図ってきたものです。

これまでの主な取り組みと成果・課題についてご報告します。

市民とともに行った主な取り組み

- 「フロリデーション」導入・啓発活動を中止
- 小松川工専地区騒音・粉塵・悪臭問題の改善。周辺住民の方々と協力して。
- 指定医療機関除外による予防接種や検診の妊産婦・新生児等へのしわ寄せ解消
- 安売りスーパー進出による近隣住宅への騒音・振動・悪臭問題の改善
- 「おあしす」の一体整備計画を「減額修正」。「は一とふる・ぽっと」移転反対。

事件への取り組み

- 救急救命士殴打隠ぺい事件。消防議会で追及。「救急隊員暴行事件調査特別委員会」を設置し「秘密会」で審査。不透明ながら一件落着に。
- 公金紛失事件。数年わたり会計課・スポーツ振興課で公金・私金（現金・商品券）合計41万4,767円が紛失。市はひそかに、会計課内に防犯カメラを設置し1年間調べたが容疑者を特定できず、警察へ被害届を提出。全容を解明し、再発防止へ。

主な事業等への取り組み ※継続中案件も

- 新庁舎、新中学校、新駅。さまざまにアイデアを出しチェックも。
- 吉川新駅（吉川美南）― 市負担を事実上なしの状態に。
- 総合治水対策。吉川駅北口及び南中学校周辺の早期改善。継続中。
- 介護保険「地域包括ケアシステム」構築の推進。
- 旧庁舎解体工事、地下杭11本残置（埋め戻し）問題の指摘。
- 美南駅東口開発。残置された専有物撤去を求める裁判及び搬入土に混入していた「ガラ」の撤去。
- コロナ感染症。市民へ正しい情報を適切に提供し、感染対策の推進を随時要請。ワクチン接種（1回～7回）、PCR検査、自宅療養者支援。タブレット端末、小中学校トイレの改修等。コロナ禍での市民・事業者への経済対策・支援事業について点検・指摘（国・市）。

（いなぎ記）

編集後記

これまでの「議会活動報告」を読み返し「良くやってきた」と思います。手作りのチラシは「青ビラ」と呼ばれていました。

伊藤さんと私で、内容とレイアウトを検討、記事を分担。パソコンで原稿を作成し、中古の印刷機で印刷。吉川・松伏の新聞販売店へ持ち込み、朝刊に折り込みました。地域へのポスティングはそれぞれが行いました。

10年続けてきましたが印刷機が壊れたのを機に、外部発注することになりました。現在は、原稿を渡し校正するだけです。ポスティングは続けています。

市政と議会のことを正しく、分かりやすく伝えることが「まちづくり」への関心につながるかと考えました。

どんなまちに住みたいのか、どんなまちにしていくのか。それを最終的に決めるのは市民です。そのための情報としての役割を「議会活動報告」で果たしたいと思っています。

行政・議会・団体・事業者そして市民にとって、取り上げて欲しくないことも書いてきました。

いろんなところから、批判やバッシングを何度も受けました。時には、弁護士を通じて名誉棄損、偽計業務妨害で訴えるといった内容証明も届きました。

「継続は力」といいますが、恐れず、あきらめず、言い続け、やり続けることで世の中の「あたりまえ」や「常識」が変わっていくものだと思います。

（いなぎ茂行）